科目ナンバリング	U-LAS05 20001 LJ40						
授業科目名<英訳>	文化人類学各論Ⅰ Topics in Cultural Anthropology I			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	風間　計博	
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	火3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

文化人類学は、西欧近代が文化的他者と接触し、文化的他者を植民地支配するなかで歴史的に形成されてきた学問である。文化人類学の現代性を考えるうえで、学問のたどってきた歴史的経緯について振り返る必要がある。

本講義では、文化人類学の成立期に関わる西欧近代と非西欧の文化的他者との接触のあり方を概観したうえで、主にオセアニア島嶼地域を対象としながら植民地主義の台頭と人類学の関係について考える。さらに、他者との接触がいかに記憶され伝承されるか（あるいは忘却・隠蔽されるか）、文字をもたなかった人々の歴史に着目し、人類学的な歴史のあり方について考える。さらに、他者との接触による文化の創造や抵抗の様態や、共生の可能性について考察したい。

[到達目標]

文化人類学の歴史的展開を理解することを目指す。現代世界において生起する諸事象について、受講生自らが人類学的に考察できる思考法を養うことを目標とする。

[授業計画と内容]

以下の項目につき、１～２回の授業を行う。授業回数は総括とフィードバックを含め、全15回とする。

１．現代世界の人類学
　１-１．人類学の時代区分
　１-２．人類学と現実批判
　１-３．グローバル化と虚偽情報の氾濫

２．植民地主義と人類学
　２-１．植民地における他者接触
　２-２．口承の歴史と史実
　２-３．他者接触による創造と抵抗

３．歴史・記憶の人類学
　３-１．太平洋島嶼部における他者との遭遇
　３-２．遭遇による破壊/移動による創造
　３-３．受動的犠牲者か/能動的行為主体か

４．共生と排除
　４-１．都市に居住する先住民
　４-２．相互理解なき共生
　４-３．強制移住と自己認識

５．総括―変転する現代世界と人間

文化人類学各論Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

文化人類学各論Ⅰ(2)

[履修要件]

人類学関連の基礎科目（文化人類学Ⅰ・Ⅱ、生態人類学Ⅰ・Ⅱ）のいずれかを履修済みであるか、併せて履修することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業時に課す小レポート30%）および小試験（70%）による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業後は、ノートを見直すのみならず、授業中に提示した文献を読み込んで、思考を深める。自ら思考する姿勢が求められる。

[その他（オフィスアワー等）]

講義室に収容可能な人数を上限として、受講者数を制限する。希望者が制限を越えた場合には、KULASISによりランダムに選抜する。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部